

パブリックデザインコンソーシアムシンポジウム 2021-夏
「地域経済と公共空間Ⅷ」
 ～二子玉川におけるエリアマネジメントの活動と公的空間の利活用～
 2021年7月17日(土) 北とぴあ(北区王子) +WEB(Zoom)

パブリックデザインコンソーシアム(以下、「PDC」)のシンポジウム「地域経済と公共空間Ⅷ」～二子玉川におけるエリアマネジメントの活動と公的空間の利活用～2021(令和3)年7月17日(土)午後1時半より北とぴあ(北区王子)及びZoomで開催し、37名の参加がありました。

シンポジウムは、基調講演として、二子玉川エリアマネジメント事務局の笠原徳広氏、内野洋介氏を講師としてお招きし、「エリアマネジメント」の先進的取り組み事例として、二子玉川におけるエリアマネジメントの活動についてご講演頂きました。後半のパネルディスカッションでは、引き続き笠原氏、内野氏にご登壇頂き、PDCからは、伊藤登氏、富岡仁計氏が加わり、公的空間の利活用、ベンチ等の装置のあり方、二子玉川とPDCの連携の可能性等について行いました。

■ゲストプロフィール



笠原 徳広 (かさらは とくひろ)
 東急株式会社 ビル運用事業部 事業推進グループ 価値創造担当 課長補佐
 一般社団法人二子玉川エリアマネジメント 事務局長
 1983年 東京急行電鉄株式会社に入社、車両の整備に従事
 1987年 二子玉川再開発事業を担当
 以降、自社ビルの管理・運営担当を経て再び二子玉川再開発事業を担当し、竣工後は引き続き二子玉川ライズの管理・運営を担当

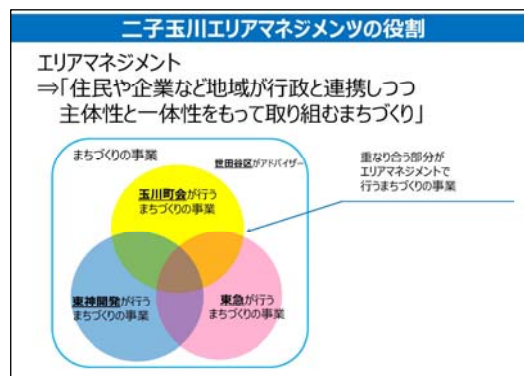


内野 洋介 (うちの ようすけ)
 東急株式会社 ビル運用事業部 事業推進グループ 価値創造担当 主事
 一般社団法人二子玉川エリアマネジメント 事務局
 2011年 東京急行電鉄株式会社に入社
 2012年 国際事業部の業務に従事。本社機能として海外拠点の子会社管理や東急グループ各社の海外事業の連携推進を担当。
 2016年 ハワイ島リゾートの資産管理・PR業務を担当し、所在資産の譲渡取引に関わるプロジェクトを担当、オーストラリアの街づくりを兼任
 2017年 二子玉川ライズのタウンマネジメント業務に従事
 2018年 二子玉川地域のエリアマネジメント業務に従事

1. 基調講演 二子玉川でのエリアマネジメント活動について

1) 二子玉川のロケーション・エリアマネジメント活動の推進体制等

渋谷から鉄道で11分、多摩川に面する二子玉川は、近年二子玉川ライズの開発等を含め魅力的な商業施設と緑にも恵まれた地区として発展を続けていること、今日のテーマの二子玉川エリアマネジメントの役割は、「住民や企業など地域が行政と連携しつつ主体性と一体性をもって取り組むまちづくり」としていること、活動推進体制としては、決定機関としての「二子玉川エリアマネジメント協議会」と実行機関としての「一般社団法人二子玉川エリアマネジメント」の両輪により、「公益還元事業」、「水辺空間利活用」、「まちづくり支援」に取り組んでいること、さらに2015年以降の取組、



講演スライドより

2019年に一般社団法人化、2020年は世田谷区による都市再生推進法人の指定を受け、コロナ禍の中で感染対策を実施したうえで、可能なイベントの実施、収益事業となる交通広場における屋外広告物事業の開始、多摩川河川敷・兵庫島公園一帯が河川空間のオープン化区域に国土交通省から指定を受けるなどの主な活動内容の説明がありました。

2) 歴史的背景

二子玉川の歴史的背景について、江戸時代は大山街道の多摩川の渡し船の宿場町であったこと、玉電の開通後景勝地としての魅力が深まり、遊園地ができたこと等の説明がありました。しかし砂利採取、自然環境の悪化等自然と都市とのバランスが崩れてきたことが問題となってきたことや市民の環境意識が高まる中、「ラブリバー多摩川を愛する会」が発足し、自然環境が回復したこと、近年では、河川空間の利活用の観点も加わり、「ミズベリング二子玉川未来会議」の発足へつながったこと等の説明がありました。

3) エリアマネジメントの活動紹介

二子玉川エリアマネジメントの活動内容について、①水辺空間利活用・演出、②公益還元、③まちづくり支援・協力、④その他活動について、説明がありました。

【水辺空間利活用・演出】

二子玉川水辺キッチンカープロジェクトは来場者の9割超から継続的な開催を望むとの回答を得たことや水辺ヨガ、流派にこだわらないアウトドアの水辺茶会、市民発意のビアパーティ等の飲食・音楽もある水辺のフェス、その他活動について紹介がありました。

【公益還元（かわのまちアクション）】

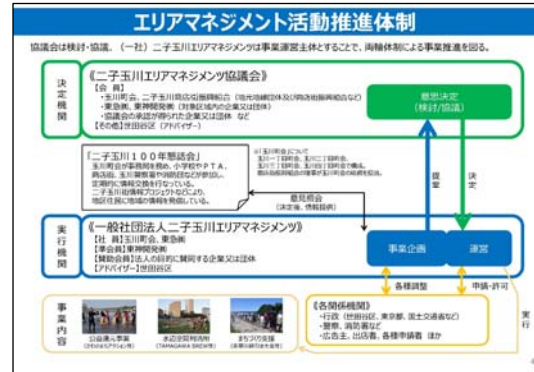
事業収益をまちづくり活動へ還元するため、多摩川支流の野川で展開する野川ベース整備大作戦&ごはん会、多摩川の水質向上のシンボルとなるマルタウグイの産卵環境づくり、橋脚の落書き消しと清掃、河川敷活用、活動・調査内容の地域への周知・共用などの公益還元活動の紹介がありました。

【まちづくり支援・協力】

花みず木フェスティバルへの協力、対岸の川崎市と連携をして大人も白熱する多摩川綱引き大会等の活動について紹介がありました。

【その他の活動】

多摩川での活動を中心としつつも、他団体との連携としたまちの観光資源をめぐるグリーンウォーク、街の情報発信、町会の掲示板へのポスター掲示、フライヤー作成のみならずWEB媒体の情報



講演スライドより

講演スライドより

講演スライドより

講演スライドより

発信や公式ホームページ、SNS の活用、年 1 度開催するシンポジウムの実施等の紹介がありました。

また、収益事業としては、二子玉川ライズの交通広場における屋外広告物事業について、2020 年から実施されていることも説明がありました。

4) 二子玉川まちみちテラスの紹介

続いて、道路空間利活用の事例として、2020 年コロナ禍で行われた二子玉川まちみちテラスの活動について紹介がありました。まちみちテラスは大山街道の商店街となる区道で実施した「みちテラス」と国道の高架下の広場前で実施した「ふれあいテラス」の 2 つのタイプがあり、緊急車両の通行のため 3.5m の通行スペースを確保した上で、それぞれの利活用状況について写真で紹介して頂いたともに、協議・申請手続きについての詳しい紹介がありました。



講演スライドより



講演スライドより

5) Futako Tamagawa Light It Blue Park の紹介

これまでの河川空間の利活用の取組みを一つのパッケージとして集約した事例として、産・官・学・民が連携した「Futako Tamagawa Light it Blue park」についての説明がありました。青い光に感謝と祈りを込めて、医療従事者やエッセンシャルワーカー等への感謝の気持ちを募ったこと、多摩美術大学と連携して学生の作品を橋脚に描いたこと、さらにそれをライトアップしたこと等についても説明されました。この活動では、これまでの二子玉川エリアマネジメンツでの活動時とは違う人々も加わり、参加者の幅が広がったとのこと等がありました。

6) 今後の展望

基調講演の最後に、河川管理者が二子玉川エリアマネジメンツ（都市再生推進法人）を占有主体に、多摩川河川敷・兵庫島公園一帯を河川空間のオープン化区域に指定したことを受け、2021 年度の取組みとして「Mizube Fun Base」と題した兵庫島におけるイベントやキッチンカー・テント等による飲食店・売店事業と様々な働き方、テレワークのスタイルの提供の一つとしてアウトドアオフィスの取組みを 2021 年 7 月から週末ごとに実施されることの説明がありました。



講演スライドより

7) 質疑

基調講演後、会場および Web 参加者からの質問を受け、ご回答頂きました。

○Light It Blue Park の光の演出費用負担はどうしているのか？

→東京観光財団の「ナイトライブ観光振興助成金」



講演スライドより

の500万円を受けて実施した。2/3が助成金、残りの1/3は企業の協賛金で実施した。

○まちみちテラスでは何が規制緩和されたのか？
→これまでもイベント時はある程度緩和されていたと思うが、今回は期間を長くすることの緩和が可能になったと理解している。

○アフターコロナでも続ける予定か？
→河川空間利活用と道路空間利活用の双方の取組みは難しい。今年は河川空間利活用は「Mizube Fun Base」で実施するが、道路空間利用のまちみちテラスは考えていない。国もウォークブルシティを推進しているので、いずれはまた、道路空間利活用も進められればと思っている。

○イベント実施時の什器の保管、運搬等はどうしたか？
→二子玉川ライズ内にある倉庫を使っている。まちみちテラスでは、商店街の中にある町会の倉庫を活用した。今年実施する「Mizube Fun Base」では、河川敷に倉庫が置けないので、近くのスペースを確保して、開催日に出し入れする予定である。

○近くの大学との連携等はあるのか？
→大学との連携については、多摩美術大学とは橋脚への絵を描くイベントの際に連携した。多摩美術大学とは二子玉川ライズの主催の公開空地を使った広場の利活用とか連携している。その他、東京都市大学や東京大学や東京工業大学とも連携している。



基調講演の様子（左：笠原氏、右：内野氏）

2. パネルディスカッション

パネルディスカッションは、引き続き基調講演の講師の笠原氏、内野氏にご登壇頂き、PDCからは、伊藤登氏、富岡仁計氏が加わり4名で行われました。パネルディスカッションのテーマは、あらかじめ次の3つを設定し、PDCの谷口雅彦氏が進行を担当しました。

- テーマ1：公共空間利活用するための課題
- テーマ2：公共空間利活用の装置の課題は何か
- テーマ3：PDCの活動の展開に向けて



パネルディスカッションの様子

【テーマ1】：公共空間利活用するための課題

- ・河川空間については、河川管理区域では、定着する設置物は難しい。撤去計画等を細かく管理者が確認することとなる。道路空間では、まちみちテラスと屋外広告物が該当すると思うが、広告物は、屋外広告物条例の規制を遵守する必要がある。まち全体で利活用を考える必要があり、エリアマネジメント団体が申請することは理解が得やすいと思う。まちみちテラスでは、一時利用は簡単に許可がでるが、長期間の利用については、車道と歩道でまた考え方が違う。区道は歩行者天国時に車道利用したということである。（笠原）
- ・兵庫島の河川敷については、管理地は国、兵庫島は世田谷区が公園として占用、橋脚は国道が占用しているので、河川法、都市公園法、道路法が絡むこととなる。今回の河川空間のオープン化の区域は、公園の網がかからない範囲なので、国交省直轄で調整できた。（内野）
- ・まず、安全性確保が第一である。事故は絶対起こさないで欲しいとのことである。（内野）
- ・道路で日本古来の祭りのための装置が組み込まれている地域もある。再整備時にあらかじめ組み込むことは考えられると思う。（富岡）
- ・河川内のグランド照明には車輪がついている。撤去時間が場所によって課題があるかも知れないが、工夫すれば河川空間内の設置もいろいろ考えられるかも知れない。（伊藤）
- ・担い手の確保や発掘は、二子玉川でも大きな課題である。事務局は6人いるが、これまでの活動で手伝ってくれた方に「Futako Tamagawa Light it Blue park」では手伝いを依頼した。一緒に

運営をしてくれる人や近隣学生が手伝ってくれるとありがたい。(笠原)

- ・人件費はエリアマネジメントの収益だけでは確保できていないのが全国的にエリアマネジメント運営の課題であり、ボランティアでは継続性の確保が難しい。学術論文でエリアマネジメントが取り上げられる機会が増えており、就職活動や若い人のエリアマネジメントに対する興味が増していると感じており、エリアマネジメントが産業として徐々に認知されていけばと思う。(内野)
- ・交通広場の広告事業は、初年度は応募が少なかったが、今年是一般企業からの依頼もあり、徐々に収益が上がると思っている。(笠原)

【テーマ2】：公共空間利活用の装置の課題は何か

まず、話題提供として、過去2年間、東京臨海部の青海で実施したPDCメッセの紹介スライドをPDCの峰朗展氏から紹介しました。

また、次の話題提供として、富岡氏より二子玉川でも活動されているアーティストの西村公一氏の活動や屋外空間で取り込まれているベンチ等の装置は、木製品が主流であること、ランドスケープのメーカー製品よりも、キャンプ製品や手作りのものが使われていること等について、それぞれの課題、費用面等について整理されたスライドの説明がありました。これらの話題提供をもとに、笠原氏、内野氏から意見を頂き、話が展開されました。

- ・木製品が多く使われていることについては、屋外空間利用にマッチするということがあるのかも知れない。池上の事例で、東急池上線の駅改修で不要となった廃材を使用したコミュニティカフェもあり、歴史や文化的文脈の中で木材が多様化されているのかも知れない。(内野)
- ・山口県の宇部市でエリアマネジメント活動の視察に行ったときに手作りのワゴンを使っていた。例えばそのようなものをPDCで作成してもらえると良いのではないかと思う。(笠原)
- ・二子玉川の活動でもスノーピークのキャンプ用品を用いており、単に安いということではなく、その製品の持つラグジュアリー感とか使用者への対応もあるのかも知れない。(内野)
- ・収納時に形が変わることができることや移動時に持ち運びしやすいことは重要と思う。(笠原)
- ・PDCのパラソルベンチのように、単独機能ではなく、複数機能を担う装置は効果的ではないかと感じている。(内野)
- ・このパラソルベンチのベンチ部分は、さらに分解も可能であるしベンチ内に他のものを収納することも可能となっている。(伊藤)



PDCメッセ (全景)



PDCメッセ (パラソルベンチ)



富岡氏スライドより (屋外空間の装置の素材等)

【テーマ3】：PDCの活動の展開に向けて

- ・河川敷でのイベントは、近くに倉庫がないことから、テーブルイスの設置は、今は断念しているが、参加者からは要望が高い。レジャーシートを作成して、収益事業として販売することも

考えている。(内野)

- 例えば、PDCのメッセの出張版を兵庫島で実施の可能性を検討してもらってベンチ、イスの設置、参加者へのサウンディングをしてもらうことの検討をいただければと思う。(内野)
- 限られたスペースしかない。多目的な機能を満たす、ある時はテーブル、イスにもなるという装置ができると良いかなと思う。(笠原)
- PDCや大学等において、エリアマネジメント活動の定量的評価があるとよい。属性、目的等、学術的な見地から分析、評価等をしてもらえばありがたい。(内野)
- 河川空間内の保管場所については、河川管理上必要なものとして位置付けて水防倉庫に入れるとか、救急用ベンチとか緊急用で使用するといった、水防用や緊急用としての位置づけについて、河川管理者と協議することが必要かも知れない。(伊藤)
- 管理する側と使う側が同じ方向を向いていると協議しやすいと思う。多摩川は台風の影響もあったので利活用する側にとっては、厳しい環境かもしれない。他地区事例だが、墨田区では隅田公園の再整備の際に、管理者である墨田区の職員が使う側としての視点で整備検討時から参加していると聞いた。(内野)



パネルディスカッション(左:伊藤氏、右:富岡氏)

【会場からの意見等】

- 兵庫島はPFI等の民間管理になるということはないのか？
→河川区域なので民間管理は難しいと思われる。

3. 閉会挨拶

シンポジウムの閉会にあたり、当会理事の天野光一氏より、昔は安全安心第一で空間づくり、製品づくりが進められてきたが、これにプラスすべきこととして、製品そのものが美しく、その場に合っていることが必要ということ、当初の目的の用途・機能を満たしつつ、複数機能を盛り込むことも重要ということ、二子玉川エリアマネジメントさんとは、良い空間づくり、活用できる空間づくりに向けて、PDCと連携を図っていきたいこと等をまとめた挨拶とし、閉会しました。

以上